

【大学等・一般の部】 優秀賞

私を元気付け支えてくれた人々に
“感謝”を込めて…

大分市 牧 信江



桜の花の季節になると、待ちに待った入学式がやって来る。小学校・中学校・高等学校では、希望に胸を膨らませ、親子で校門を潜る。私は三人の子と共に、九回経験した事になる。

新学期が始まると、直ぐにPTAがやって来る。これが頭を悩ます。何故ならPTAの役員決めがあり、憂うつになるのである。現在はどうか知らないが、昔は四月のPTAの出席率は最低であった。役員になりたくないのが、最大の理由だろう。限られた人数の中で、いよいよ役員決めが始まる。先生より、「今年一年間子供の為に協力して頂きたい。」とお話があった途端、全員揃って下を向き具になる。誰一人顔を上げる人はいない。誰かが口火を切ろうものなら、役員にさせられるからである。私はこの重苦しい空気に耐えられない。先生の困惑した顔を見ると、かわいそうで、助けてあげたくなる。そして、つい手を挙げてしまうのである。「私自身、病人の介護で大変ですが、私で良かったら。」と。すると全員「ホッ」として、一斉に顔を上げるのである。こんな調子で、足掛十年間役員をした事になる。しかし長年役員をして、後悔をした事は一度もない。むしろ私は皆さんに元気付けられ、助けられたと感謝している。

私はこの間、義母の介護で一番苦しい時期であった。寝たきりで手が掛かり、私の心は追い詰められ、暗いトンネルの中にいる様だった。ところが、役員になって、心が外に向くことで、心に光が射し、子供達にも優しく接する事が出来た気がする。役員さんの家に集まり、ランチをしたり、皆でお茶を飲んだりした。私は皆と談笑する事で、気持ちが晴れ、心にゆとりが出来た。精神的にもどれほど救われた事か…。「感謝」の気持ちで一杯である。

小学校で六年間、中学校で一年間、最後は娘が高校に入学して卒業するまでの三年間、役員を続けた。職業や年齢・出身地等、様々な人の集まりであったが、それが又新鮮でもあった。本当に素晴らしい人が多く、教わる事も多かった。気が合い仲も良かった。卒業式が終わって、誰かが「せっかくなのでいい友達になれたのに、このままバラバラになるのは、もったいない。会を作って時々会おうよ。」と提案してくれた。会は「木蓮の会」としたら…と、トントン拍子に話が進んだ。こうして「大商木蓮の会」が誕生したのである。一年に一回七月の第一日曜日に昼食会を開く事となった。その会が三十年も続くとは、誰が想像しただろう。今年で終わりのつもりだったが、コロナの為出来なくなり、昨年三十回で幕を下ろすことになったのである。全く見ず知らずの人々が、PTAを通じて知り合い、共に目標に向かって活動して来た仲間達、同志と言っても過言ではあるまい。

木蓮の会の話題も回を重ねる度に、私達の年齢と共に変遷して行った。子供の就職・進学に始まり結婚・孫の誕生・健康・病気の話・終活の話と言った具合である。

三十年間会う度に、一層親しさが増していった気がする。本当に楽しく、大声でお腹がよじれる程笑い転げ、皆さんから元気を頂いたと感謝している。こうして長く続けて来れたのも、「人の悪口や噂話をする人がいなかった事」「威張る人がいなかった事」「本音で話し合えた事」「笑いが絶えず、心を和ませてくれた事」等々、会の皆さんのお陰だとつくづく思う。私は役員になった事で多くの人と出会い、深い絆で結ばれた事に、一種の感動さえ覚える。又、人生の1/3以上のお付き合いに、不思議な縁を感じるのである。七十八才の私の人生を振り返った時、本当に皆様に助けられ、支えられて、今日の元気な自分が有るのだと思う。「感謝」の一言に尽きるのである。

今まで出会って来た一人一人に感謝を込めて、私はお礼を言いたい。

「有難うございました。」…と。

